令和４年度　特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告

１．基本方針について

（１）新型コロナ感染防止対策により、入居者の生活環境にも少なからずの影響があった。それらを挽回しようと、施設内に飾り付けをしたり、行事の際は職員が仮装したりなど工夫を凝らした一年でした。

（２）入居者が必要としているケアを、必要な時に必要な量で提供できるよう、職員一人ひとりに指南したことも事実です。また、新規の入居者も多かった（１８人）ことで、意識の向上を図る為にも会議を活用してきました。

（３）日々のケアにおいて、多職種間との連携は言うまでもなく必要であった。専門的知識向上のためには、研修も必須でありコロナ禍のため zoom で参加、習得することになりました。

（４）入居者の安全に取り組み、特に新型コロナ感染防止対策には職員一人ひとりが知識を深め、研修や感染防止に努めてきましたが、２名の入居者が感染してしまいました。それでもクラスターに拡大することはなく終息したものの、対応する職員の配置に苦慮したことも事実です。

（５）感染症が危惧されることから、全体で行う行事は縮小となりましたが、個別に楽しめるような編み物や塗り絵、本の読み聞かせなどで一緒の時間を過ごすことができました。

（６）今年度は自発的に広報委員を発足してくれた職員もいて、若さと前向きな姿勢を応援しているところです。具体的には「茶囲夢」の発刊継続と SNS（インスタグラム）で家族への近況報告。また、当施設の情報公開も兼ね職員募集活動にも働きかけていく予定です。

２．具体的な取り組みについて

（１）生活・環境面

取　組	具体的な内容
１．居心地の良い環境づくり	１－①　外出や交流制限の中でも、生活の中に居心地の良さが感じられる環境づくりに努めてきた。 ・　入居者の居場所作り 　手作りの鳥居を製作したり、共用スペースを活用した季節毎の設えをしてきた。 ・　エアコンや床暖房、加湿器で室温や湿度の調整 　節電に努めながらも、過ごしやすい環境作りをしてきた。 ・　臭いのない施設づくり 　排泄物を新聞紙で包む処理と換気。また、空気清浄機の活用や入居者の口腔ケアを徹底することで空間消臭ができた。 ・　寝具を工夫することで寝心地の良いベッド環境づくり

	本人に適した枕や体位交換用クッション、マットレス等を提供。 ・　感染予防対策 職員の出勤時、検温・手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用。また、共有の場所や手すり等の消毒掃除を実施。
２．生活リズムの継続	２－①　生活習慣と意向を尊重し、就寝や起床時間、食事・入浴・排泄ケアを個別毎に対応。 ②　食事：食べられるタイミングに合わせ提供してきた。 ③　排泄：パターンの把握と排泄用品の選定を行ってきた。 ・　意向の尊重とプライバシーに配慮した介助に努め、また、トイレでの排泄に取り組んできた。 ・　水分摂取と排泄の形状や下剤の調整で、スムーズな排便環境を整えることができた。 ④　入浴：体調に合わせた入浴形態と環境を整え、気持ちの良い入浴をできるようにしてきた。（ユニット内にある家族風呂、リフト式機械浴、チェアインバス等の使い分け。） ・　お風呂の日を設けてきた。（ゆず湯や菖蒲湯の提供により香りも十分に楽しんで頂けた。） ・　体格や皮膚のもろさを考慮し、入浴もリフトを使うなど前向きに取り組んできた。（現在も３人の入居者に対応）
３．家庭的な雰囲気づくり	３－①　入居者とのコミュニケーション 入居者と会話する時間を増やし信頼関係を築いてきた。 ②　誕生日祝の継続と家族へのお便り ・　入居者の誕生月に家族へ連絡。面会等で繋がりを大切にしてきた。誕生会は、厨房手作りのケーキでお祝いができた。 ・　家族へのお便りを年３回、近況を報告。（手紙や写真の送付等） ③　食卓を囲み一緒に食事 ・　現在、感染症が危惧されることから、入居者と一緒に食事することが叶わず、もどかしい思いをしている。 ④　ご家族との面会 リモート面会、若しくはガラス越しの面会であり、対面は未定。 ⑤　施設内でも季節を感じられるような工夫をしてきた。 畑作り（収穫時期には入居者と楽しく調理）。季節行事（団子さし、柏餅作り、枝豆取り、フキの皮むき等を和気藹々としてきた）。
４．社会との繋がり	４－①　計画はあったがコロナ禍により断念。（外出支援、ボランティアの協力、認定こども園・までい学園との交流等が行えませんでした。） 次年度は、コロナ感染対策を取りながら、安全性が図れた上で、少しでも社会との繋がりを検討して行きたいと思います。

（２）サービスの質の向上

取　組	具体的な内容
１．重度化ケア	１－①　その人らしい最期を迎えられる（看取り） ・　残された時間の支援を、家族と共有することができた。 ・　最期まで口から食べられる思いを大切にしてきた。（好きな物を一口でも食べて頂くことができた。） ・　入浴については、看護師の協力もあり可能な限り励行。 ・　口腔ケアを徹底してきた。（口腔内の洗浄や喀痰除去等の清潔保持に努め二次的感染を防いできた。） ・　寝具は肌触りの良い軽い物を選び、好きな音楽を流し、温かく見守ることができたと思います。
２．自立支援	２－①　レクリエーションへの参加や生きがいづくり ・　コロナ禍であったものの、小規模でレク体操や趣味の活動（塗り絵や展示作品づくり等）を実施してきた。完成した展示作品等は村文化祭に出品。 ・　生きがいづくりの一環として、個々の機能に合わせた日常生活の役割（洗濯たたみ、おしぼりつくり、食事配膳のお手伝い等）を提供してきた。

（３）人材育成

取　組	具体的内容
１．職員育成	１－①　コロナ禍であり、オンラインでの研修が主となった。 令和４年度研修一覧のとおり参加してきた。
２．会議、委員会の充実	２－①　職員が各委員会に所属、専門的知識を習得し、具体的なケアに取り組んできた。（委員会が中心となり改善や向上に繋げるため、適宜、会議や委員会を開催してきた。） ア）食事、口腔ケア委員会（口腔内の衛生や、食事を美味しく食べて頂けることの工夫等について取り組んできた。） イ）事故防止対策及び感染防止委員会（リスクマネジメントと感染予防等に力を入れ、生活が安全に継続できるよう取り組んできた。） ウ）ケア向上委員会（ケアの提供が適正に行われているか否か、また、褥瘡ゼロと予防についても取り組んできた。） エ）設備・環境委員会（災害時の備品準備と、即対応をできる体制に努めてきた。また、3.10 に防災の日として救急の勉強会や備蓄品の確認、発電機の稼働、災害発生時マニュアルの確認等を行ってきた。） オ）身体拘束・虐待防止委員会（身体拘束や虐待が行われていないか定期的に確認、安心して日常生活が送れるよう取り組んできた。） カ）広報委員会（機関紙の発行やＳＮＳの発信を行ってきた。） キ）行事・レク委員会（季節の行事や祝ごと、また、日常のレクリエ

	ーションを楽しんで頂けるよう、計画的に実施してきた。） ク）安全管理体制委員会（危機管理や有事に備え、事業が継続できる体制について取り組んできた。） ２－②会議の充実 ア）家長会議の充実（月１回開催） リーダーとしての自覚を持ち、職員育成にも取り組めるよう意識づけしてきた。また、各家の動向や情報の共有化にも努めてきた。 イ）ケア会議の充実（適宜） 医務とケアマネジャーを中心に、ケアプラン計画や見直しを行ってきた。 ウ）家内会議（月１回） 情報の共有や職員同士のコミュニケーションを図り、質の高いケアの提供を目的として開催してきた。

３．入退居等について

（１）令和４年度 月別入退居者数（介護報酬請求人数）

月　別	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
入居者数(人)		3			3	1	2	1	2		3	3	18
退居者数(人)			1	4		1	2	2	2	2		3	17
月利用数(人)	44	47	47	46	45	46	47	46	46	44	45	48	

（２）令和４年度 要介護度男女別利用状況（介護報酬請求人数 62 人（男性９人、女性 53 人）

要介護度	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計
男　性（人、%）	0	0	2	4	3	９人 （14.5%）
女　性（人、%）	0	0	18	22	13	53 人 （85.5%）
計　（人、%）	0	0	20	26	16	62 人 （100%）
介護度比率（%）			32.3%	41.9%	25.8%	100%

（３）年齢男女別状況（R5.3.３１現在の入居者数）

	～64 歳	65～69	70～79	80～89	90～99	100 歳～	計
男 性（人）	1	0	0	3	1	0	5　（11%）
女 性（人）	0	1	1	10	23	5	40　（89%）
合 計（人）	1	1	1	13	24	5	45　（100%）

（※　入居者数 45 人、最高齢者 107 歳、最年少者 62 歳）

４．年間の主な行事

5.8	母の日	女性入居者へ職員手作りのキーホルダーをプレゼントしました。昼食は、行事食で母の日に感謝し美味しく頂きました。
5.21	柏餅作り	西棟、北棟に分かれ、柏餅を入居者と一緒に作りをしました。入居者はとても慣れた手つきで餡を生地で包んでいました。また、蒸しあがった柏餅は午後のおやつに皆で美味しく頂きました。
5.28	フキの皮むき	慣れた手付きでフキの皮むき、大きな鍋で茹であげました。茹であがったフキを目の前で炒め、「味は甘い方がうまいんだ」とのアドバイスを頂き、美味しそうなフキの炒め物が出来上がりました。
6.19	父の日	男性の入居者へ、母の日と同じキーホルダーと表札をプレゼントしました。（表札に自分の名前を見つけ微笑んでいました。）　昼食は、握り寿司で、とても嬉しそうに頬張っていました。
6.2～4	しょうぶ湯	個浴や機械浴時に、しょうぶを浮かべ、季節感や香りを感じて頂き、「しょうぶ湯」の由来等を話していました。
7.7	七夕	入居者と一緒に七夕の吹流しをつくり、西・北棟に飾りました。それを「綺麗だな」「大きいな」と眺めていました。また、短冊には思い思いの願い事を書いて飾りました。昼食は、そうめん弁当で暑さを吹き飛ばしました。
9.18	敬老会	コロナ感染予防に留意しながら、西棟ホールにおいて、職員手作りの敬老会を開催。100歳以上（６人）の方を紹介。また、職員による大黒米の披露や、昼食は、各家に戻り敬老祝膳を美味しく頂きました。
9.25～	作品づくり	村の文化祭に作品を展示するため、リースづくりに励んできました。
10.8	ドライブ	大雷神社大祭の準備している様子や、自宅の様子を車窓から懐かしそうに眺めていました。久しぶりの外出ということもあり、参加した皆さんは大喜びでした。（参加者17名）
12.25	クリスマス会	感染予防のため、今回は、職員手作りのソリに乗ったサンタやトナカイが各ユニットを回りプレゼントを配りました。昼食は、食べ易い軟らかいハンバーグ等を頂きながら、クリスマスの雰囲気を味わいました。
12.28	もちつき	コロナ感染拡大防止のため、一同に会しての餅つき会は行わなかったものの、厨房からお餅（餡、じゅうねん、汁餅等）が提供され、美味しく頂きながら年の瀬を感じていました。
1.4	新年会	コロナ感染拡大防止のため、新年の顔合わせは中止。 年末に西棟ホールに鳥居を設置。そこで一年の願い事を絵馬に書き飾りました。 神社名は「一笑満金神社」（これからも生涯笑って過ごせますように）と名付けました。昼食は厨房からの祝い膳が提供され、皆で美味しく頂きました。
1.14	団子さし	各ユニット内で一緒にみずの木に団子をさしました。作業を終え、ティータイムには、みたらし団子を食べながら飾り付けた団子さしを懐かしそうに眺めていました。
2.3	豆まき	今年の年男年女（入居者1名、職員5名）が、各ユニットを回り、豆まきをしました。入居者は、鬼に扮した職員に豆を一生懸命投げ、笑いを誘うなど大変盛り上がりました。
3.3	ひなまつり	ひな壇の前で一人ひとり着物を纏い記念撮影をしました。 昼食は、厨房職員による握り寿司を食べながら、「花より団子」の気分で、とても満足していました。
毎週日曜日／毎週木曜日		手作りおやつで喫茶タイム／音楽療法
月１回（月末）		避難訓練を実施

令和４年度　ひだまりの家　生活状況報告書（西棟）

１．家目標と方針について

（１）認知症状のある方でも心を落ち着かせて暮らせる“居場所”づくりに力を入れてきました。（気の合う入居者同士の席替えや、フロア内にテレビと炬燵を２か所設け、寛げる居場所を提供してきました。）

（２）入居者を深く理解するため、職員間で情報を共有しながらケアに繋げてきました。（翌日の出勤者でも分かり易いよう、申し送りノートの記入方法も工夫してきました。）

（３）普段からの体調の変化や、些細な行動の変化に気付き多職種間と連携を取りながら、その人らしい最期を迎えられるお手伝いしてきました。（看取りがこんなにも難しいと痛感させられた一年でもありました。）

２．入居者の状況（令和５年３月 31 日現在）

≪入居者数≫

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
７人	107 歳	84 歳	91.7 歳

≪要介護度の内訳≫

要介護度	要介護３	要介護４	要介護５	介護度平均
人　　数	２人	４人	１人	3.86

≪認知のある方の状況≫

軽度が２人、他５人については中度～重度。

３．具体的内容

(1)生活	①　入居者に晴れ着を着て頂き誕生会を行うことが出来ました。 ②　毎日できるお手伝いとして、洗濯物たたみや新聞折など行って頂きました。洗濯物のたたみ方一つにしても其々に個性や拘りがあり、一人ひとりの持ち味を知ることが出来ました。 ③　コロナの影響で行動を制限され、室内で過ごす時間が多かったため、精神的に不安定になる方もいたように思います。身体を思いっきり動かせる時間をもう少し増やして行けば良かったと思いました。 ④　情報共有をしっかり行ってきたことで、個々を理解でき、チーム全体でケアに取り組むことが出来ました。 【面会状況】 （延人数 33 人、面会最多者６回）
(2)食事	機能低下により、随時、食事内容の見直しを行い、食べ易い食事形態のものを提供することが出来た。また、嚥下機能に合わせゼリー食や栄養補助食の提供など安全な栄養管理に努めてきました。 【食事形態及び介助状況】

	食事形態　（軟食２人、キザミ食２人、ゼリー食２人、経管栄養１人） 食事介助　（全介助２人、一部介助２人、自立３人）
(3)入浴	①　個々の状態に合わせ入浴形態の見直しを行ってきました。 　その時の状態に合わせ、入浴形態を見直しながら最期まで安楽に入浴して頂くことが出来ました。 ②　時節に合った入浴剤を使用、季節感を感じられるよう努めてきました。 　夏場は湯上り後、すっきり・さっぱり感があるものを、冬場は温かさが続く物を選んできました。 【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 546 回、機械浴 190 回）
(4)排泄	①　排尿・排便チェック表を活用、個々に合ったパットやオムツを選定してきました。 　個々の排泄時間を把握することで、交換時間やトイレ誘導を行えるようにしてきました。 ②　医務と情報共有しながら、状態に合わせ食物繊維を利用することにより、排泄環境を整えることが出来ました。 【排泄介助】 （トイレ介助者３人、オムツ交換者４人）
(5)認知症ケア	①　情報を共有するため、申し送りノートの他にも、細やかに記したメモ帳をつくるなど、より入居者を理解することで、前向きなケアに取り組むことが出来ました。 　ケアに対しては、一人で悩まずチーム全体で検討して行くことで、良いケアを提供できたと思います。 ②　より多く関わることで、自然に会話が生まれ、馴染みの関係をつくることが出来ました。 ③　一人ひとり状態が違うため“今、して欲しいこと”を、表情や言動から判断することの難しさを痛感しています。 ④　毎日が勉強です。（人のお手伝いをすることの難しさを学ばせて頂いています。）

令和４年度　ぬくもり家　生活状況報告書（西棟）

１．家目標と方針について

（１）家庭の延長と感じて頂けるような環境づくりに努めきた。施設であっても出来ることは提供してきた。（出来ることを引き出すことの重要性も学びました。）

（２）車椅子を操作できる方の自立性を尊重しながら、一方では事故を未然に防ぐ工夫と洞察力が求められた一年でもありました。

（３）介助業務が優先となってしまう場面も見られたが、チームワークを大事に、入居者ありきの時間の過ごし方を目指してきた。

（４）気持ちよく過ごして頂くため、日頃できない所の掃除や居室の整理整頓を行い清潔な環境づくりにも心掛けてきた。

（５）体調管理は勿論、急変時の対応や災害時の対応など各種マニュアルを頭に入れ対応すべく、家内会議だけでなく、救急時の対応や事故発生防止委員会等で勉強しています。

２．入居者の状況（令和５年３月 31 日現在）

≪入居者数≫

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
７人	103 歳	80 歳	89.4 歳

≪要介護度の内訳≫

要介護度	要介護３	要介護４	要介護５	介護度平均
人　数	２人	３人	２人	4.0

≪認知のある方の状況≫

軽度が１人、他６人については中度～重度となっている

３．具体的内容

(1)生活	①　感染予防対策に努め、加湿や換気・室温を管理し体調管理を行ってきた。 　レクリェ-ションやカラオケなどの楽しみ方については、場所をホールから家内のスペースに変えて行ってきた。逆にこじんまりしたことでの楽しさもあった。 ②　入居者毎に担当が決まり、家族との連絡調整も事なきを得た。 ③　コロナ禍で、窓越しの面会となっているにも拘わらず、来て頂いたご家族に感謝したい。（ただ、私たち職員は家族の代わりにはなれないとも感じました。） ④　入居者を思っての声かけが、行動をせかすようになり、待てない援助をしてしまうことがあった。上手く伝えられる職員を手本とすることで解決の糸口が掴めてきています。 ⑤　在宅酸素療法を導入し生活を送っていた方がいます。心配していたチューブのトラブルもなく、全ての職員が扱いに慣れたことはいい経験になっ

	たと思います。 ⑥　あったかい環境づくりのために、一緒に植木の手入れをしたり、花を活けることもできた。 【面会状況】 （延人数 68 人、面会最多者 14 回）
(2)食事	①　食事形態や摂取のタイミングを、入居者に合った提供が出来、また、食事を摂る姿勢や咀嚼、誤嚥にも注意し安全な食事提供ができたと思います。 ②　水分量と排泄のイン・アウトを把握し、考察することも学んだ。 ③　経口摂取がなかなか進まない方には、基本どおり「好きなものを、食べられる分だけ」と考え、本人が満足できる環境から支援してきた。 【食事形態及び介助状況】 食事形態　（軟食２人、キザミ食１人、ソフト食２人、ゼリー食１人、経管栄養１人） 食事介助　（全介助２人、一部介助２人、見守り３人）
(3)入浴	①　機械浴対応の入居者を３人体制で行っていたが、リフトを導入したことにより２人体制で行えています。 ②　臀部の摩擦を考慮し、エアークッションや浴槽内に椅子を入れて対応。それでも皮下出血ができてしまう方には、軟らかい布で保護クッションを作り対応してきた。 ③　皮膚乾燥予防は、個人に合ったボディークリームや保湿クリームを使用してきた。また、皮膚トラブルでは看護師に報告、ワセリンや軟膏を塗るなどスキンケアにも努めてきた。 【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 320 回、機械浴 351 回）
(4)排泄	①　排便コントロールについては、快適な排便を促すため看護師と連携し、下剤の時間や日にちなどを調整してきた。 ②　排尿の量に合わせたパットの選定が出来た。夜間帯の尿量については、他の家職員からの助言もあり、パットの見直しに繋げることも出来た。今後も、気兼ねなくアドバイスをし合えるようにしていきたい。 ③　状態が悪い方に対しての体交時間や介助方法、クッションの当て方、パット変更の有無などについて、改善に努めてきた。 【排泄介助】 （トイレ介助者５人、オムツ交換者２人）

令和４年度　やすらぎの家　生活状況報告書（西棟）

１．家目標と方針について

（１）今年度は亡くなられた方が３人いました。もちろん、何度経験しても慣れることはありません。この日が最期の日だと思ってお世話ができたかと自問することもありました。

（２）小さな変化にもいち早く気付き、情報を多職種間と共有することで、安心して過ごして頂くことができたのではないかと思います。

（３）個々に合わせた時間や内容で対応できるよう、申し送りの徹底に心掛けてきましたが、言葉で伝えることの難しさや、統一したケアを行うことの大切さを知ることができた一年でもありました。

２．入居者の状況（令和５年３月 31 日現在）

≪入居者数≫

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
７人	102 歳	68 歳	88.7 歳

≪要介護度の内訳≫

要介護度	要介護３	要介護４	要介護５	介護度平均
人　数	１人	５人	１人	4.0

≪認知のある方の状況≫

軽度が４人、他３人については中度～重度となっている

３．具体的内容

(1)生活	①　ラジオ体操やパタカラ体操に取り組み、習慣として行うことが出来た。 ②　家で野菜を育ててきたものの、一緒に手入れや収穫をすることができなかったことが残念でした。 ③　お手伝いができる方の役割として、洗濯たたみや配膳を毎日行って頂くことで、生きがいと健康維持にも繋がった。 ④　在宅酸素について、チューブの取り扱いに慣れるなど、トラブルもなく良い経験になった。 ⑤　外気浴に取り組むことがなかなか出来なかったが、施設内を散歩したり歌を歌ったり、個々に合わせメリハリのある生活を送って頂く事ができた。 ⑥　家会議では、全員が意見を出し合うことで、ケアの向上に繋がり、共に協力しながら提供することができた。 【面会状況】 （面会延人数 65 人）
(2)食事	①　体調に合った食事内容や摂取状況を検討。また、変化があった際は臨機応変に対応できたことで、食事を美味しく頂く事が出来たのではないかと思います。

	②　食前体操を一緒に行うよう心掛け、継続してきたことから口腔機能維持に努めることができた。 ③　家料理や中庭での食事会が殆ど出来ていなかったので、次年度は季節毎に計画を立て、食べる楽しみを味わって頂きたいと思います。 【食事形態及び介助状況】 食事形態　（軟食５人、キザミ食１人、経管栄養１人） 食事介助　（全介助１人、一部介助１人、自立５人）
(3)入浴	①　体調や皮膚状態に合わせ入浴方法を検討。個浴利用の場合、負担なくゆったりと入浴して頂くため２人対応で行ってきた。 ②　特浴でも流れ作業にならないよう、余裕を持って介助を行うことで、入浴中の会話も増え、ゆったりと入浴して頂くことができた。 ③　内出血等が出来やすい方への対応として、シャワーチェアーの選択や器具等にカバーをすることで予防に繋げることが出来た。 ④　乾燥性皮膚トラブルがある方は、保湿クリーム等を入浴後に塗布することで緩和を図っていますが、まだ、改善には至ってないため経過観察が必要。 【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 384 回、機械浴 297 回）
(4)排泄	①　尿臭対策では、細目な衣服交換や消臭スプレーを利用。また、パットの選定をすることで尿臭軽減に努めることができた。 ②　個々の尿量を把握し、早急に尿量に合ったパットの見直しを行うことで、皮膚トラブルを防ぎ、不快感の軽減にも繋ぐことができた。 ③　声掛けを工夫し、「自分でできる」と感じて頂けるような対応をしてきた。また、見守りを強化することで転倒の予防にも繋げることができた。 【排泄介助】 （トイレ介助者３人、オムツ交換者４人）
(5)認知症ケア	①　言動の意味を理解し、一人ひとりに合わせた声掛けに心掛けてきた。 ②　癒しになればと、話すお人形やぬいぐるみなどを活用してきた。 ③　個々の生活パターンや生活リズムを把握し、一人ひとりにとってのベストなケアとは何かを考え、コミュニケーションをより多くとることで、信頼関係を築けてきたかなと思います。また、時間に追われるのではなく、ゆとりをもって対応してきたことから、落ち着きがでて、安心して過ごせていたとのではと感じました。

令和４年度　せせらぎの家　生活状況報告書（北棟）

１．家目標と方針について

（１）新規の入居者についても求めていることに着眼し、介護員同士で議論し合うことが出来た。

（２）書類関係の更新において、職員間での意識が高まりその都度まとめられた。

（３）認知症の進行、体調の変化等により、今までの意思疎通や介助の仕方が難しくなった際も、職員一人ひとりが入居者に合わせたケアに心掛けて来た。

（４）気付く力を更に身につけ、小さな変化にも早期対応できるよう、今後も家内会議やケア会議で情報を共有し、知識を深めていきたい。

２．入居者の状況（令和５年３月 31 日現在）

≪入居者数≫

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
８人	97 歳	76 歳	90.1 歳

≪要介護度の内訳≫

要介護度	要介護３	要介護４	要介護５	介護度平均
人　数	２人	２人	４人	4.25

≪認知のある方の状況≫

軽度が２人、他６人については中度～重度となっている

３．具体的内容

(1)生活	①　朝一番の声掛けに配慮することと、ラジオ体操を一緒に行うと云うことを継続しました。もたらす効果に実感しています。 ②　新型コロナウイルスに感染してしまった入居者及び職員がいました。 　隔離された入居者に孤独感を味わうことのないようにと、窓に折り紙を貼りまくった職員に、その気持ちに感動してしまいました。 ③　終末期に入った入居者についてはいろいろ教えられました。 　辛い中でも笑顔を見せてくれる入居者がいたこと。食事が摂れなくなったからと、遅番勤務者がアイスクリームを買ってきてくれたこと。看護師も一緒になりお世話したこと。お風呂に入って良い顔を見せてくれたこと。何度となく家族が来てくれたこと。感謝さえされました。 　何もかもが此処でしか経験できないことばかりです。“看取りケア”と一言で言うのはとても簡単です。が、その深さについては無限だと改めて考えさせられました。 ④　レクリエーションや外気浴、塗り絵や計算問題など、機能訓練を兼ね、職員も一緒に楽しめるよう心掛けてきた。次年度も個々に合った余暇の過ごし方を考えていきたい。

	【面会状況】 （面会延人数 65 人、面会最多者 12 回）
(2)食事	①　食前体操の声出しを積極的に行い、機能訓練の意識を持って取り組めた。 ②　家料理は年に２回開催できた。誕生日には手作りケーキを前に、職員と一緒に写真を撮りながら楽しむことが出来た。 ③　畑で野菜作り、ユニット内で漬物や簡単な調理をすることで、収穫と食べる喜びを味わえたと思います。 ④　なるべく自分で食べるよう声掛けしてきた。介助で食べられる方については、食べ物を説明することで、より美味しく頂けたのではないかと思います。 【食事形態及び介助状況】 食事形態　（軟食３人、キザミ食３人、ソフト食１人、経管栄養１人） 食事介助　（全介助４人、一部介助３人、自立１人）
(3)入浴	①　好きな音楽と適温で、ゆっくりと入浴してもらえる環境をつくりました。 ②　関節拘縮が強い方の洗身時には、洗身タオルを手袋タイプに変える等、痛みの軽減に努めながら清潔にすることができた。 ③　体調不良時でも、手浴足浴や清拭等で清潔を保てるように努めてきた。 【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 270 回、機械浴４30 回）
(4)排泄	①　日々の排便周期を把握、看護師の協力もあり排便コントロールを行ってきた。スッキリとトイレで出す爽快感を感じてもらうため、応援要請したことしばしば。でも、私たちは何にも代えられない笑顔を見ることができました。 ②　漏れや不快な思いをしない為に個々の排泄アセスメントを行い、パットの選定や当て方、また、介助方法について様々な角度からアプローチし、常にその人に合った最善の方法を話し合いながら決めてきました。 【排泄介助】 （トイレ介助者５人、オムツ交換者３人、オムツ使用からトイレ介助へ移行した人数１人）

令和４年度　だんらんの家　生活状況報告書（北棟）

１．家目標と方針について

（１）新規の入居者が４名。その都度施設生活に馴染めるようケアに努めてきた。

（２）状態変化を見逃さない事で、早目の対応ができ重症化を防げた。今後も観察を怠らないよう少しの気づきも大切にしていきたい。

（３）毎月の家目標に対し具体的に取り組み、反省を繰り返すことで意識向上に繋げられた。

２．入居者の状況（令和５年３月 31 日現在）

≪入居者数≫

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
８人	96 歳	83 歳	91.25 歳

≪要介護度の内訳≫

要介護度	要介護３	要介護４	要介護５	介護度平均
人　数	３人	４人	１人	3.75

≪認知のある方の状況≫

軽度が１人、他６人については中度～重度となっている

３．具体的内容

(1)生活	①　感染症予防により活動制限がある中、機能低下を防ぐため、家内でのレクリエーションを行うことで笑顔を引き出せた。また、編み物や塗り絵、計算問題、間違い探し、カレンダー作成、村文化展に出展する作品を職員と一緒に制作、共に楽しめ達成感もあった。 ②　誕生日の案内や買い物依頼等、ご家族との連絡を十分取ってきた。 ③　終末期のケアでは３人の方を看取りました。面会制限の中、ガラス越しではありましたが、何回でも面会ができ、また、其々の状態に合った支援が出来たのではないかと思います。 【面会状況】 （面会延人数 71 人、面会最多者 11 回）
(2)食事	①　体重増減や嚥下状態に合わせ食事変更ができた。今後も食事が安心して摂れるよう、摂取姿勢や、むせり、飲み込み、嚥下状況に注視していく。 ②　目の前で盛り付け、また、配膳を工夫することで食欲増進に繋げてきた。 ③　体調管理については、看護師、栄養士、厨房の協力により、食べたい時に提供できるようにしてきました。 ④　「最期まで好きな物を食べて死にたい、我慢してまでも長生きしたくない」という意思表示を大切にすることを学びました。 【食事形態及び介助状況】 食事形態　（軟食４人、キザミ食３人、粗刻み食１人）

	食事介助　（全介助１人、一部介助１人　、自立６人）
(3)入浴	①　腕や手に内出血ができ易い方の対応として、見守りを強化し、臀部や仙骨部にエアークッション等を使用し保護してきた。 ②　入浴拒否が見られる方については、声掛けや誘導の仕方を工夫してきた事により上手く対応出来た。今後も気分良く入れる工夫を心掛けていく。 ③　好みを知り、また、保湿効果のある入浴剤を使用することで、リラックス効果を図ってきた。入浴後にクリームも使用しスキンケアに努めてきた。 ④　機械浴から個浴に変更された方が２人。個浴から機械浴に変更された方が１人でした。 【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 411 回、機械浴 280 回）
(4)排泄	①　快適な排便を促すため、医務の協力を得、下剤のコントロールを行い、７人の方がトイレでの排便を行えた。（1 人は職員２人対応でのトイレ介助） ②　尿量に合わせたパットの選定を行い褥瘡予防に努めてきた。また、夜間帯は家職員だけでは把握しきれないため、他の家職員からの助言を得ることでパット等の見直しに繋げることが出来た。 ③　状態を悪くしている場合は、看護師や上司の指示の下、その状態に合ったケアをすることで改善に繋がった。（体交の見直しやポジショニングの変更など） ④　排尿を出し切る事で、失禁回数が減った事例もあり、パットのサイズを下げる事も出来た。結果、コスト面においても節約出来た。 【排泄介助】 （トイレ介助者７人、オムツ交換者１人）
(5)認知症ケア	①　伝え方に工夫しながら話し掛ける事で、穏やかになって行く姿が窺え、声掛けの大切さを改めて感じた。 ②　昼夜逆転の対応に手を焼いたのは事実です。ちょっとした間で転倒などのアクシデントもあり対応の難しさを感じている。 ③　帰宅願望が見られた時は、寄り添う事で落ち着きが見られた。

令和４年度　こもれびの家　生活状況報告書（北棟）

１．家目標と方針について

（１）その日の体調や環境の変化、表情や言葉、行動などを見逃さず、さりげなく隣に腰を下し、一緒にお茶を飲むことが出来る介護を目指してきた。

（２）食べて元気になって欲しいという気持ちを大切にしてきた。

（３）家族との面会は窓越しが続き、何かと欲求不満の事態になっている。それでも寄り添い、興味のある会話や居場所を確保することでリフレッシュを図ってきた。

２．入居者の状況（令和５年３月 31 日現在）

≪入居者数≫

入居者数	最高齢者	最年少者	平均年齢
８人	102 歳	62 歳	90.3 歳

≪要介護度の内訳≫

要介護度	要介護３	要介護４	要介護５	介護度平均
人　数	４人	２人	２人	3.75

≪認知のある方の状況≫

軽度が４人、他４人については中度～重度となっている

３．具体的内容

(1)生活	①　３人の看取りに携わりました。そんな時、いつも思うことがあります。“もっとこうしておけば良かったのかも。本当に十分にしてあげられていただろうか”と。でも、私たちはその人の人生に携わることができる。そう思うと、自分の担当時に最期を迎えて欲しいという気持ちでいっぱいになります。 ②　事故対策予防として、数多くのヒヤリハットがありながらも、口伝えの連絡となってしまい報告に繋げることができなかった。反省点です。 ③　自力でできる方に対しても、つい手伝ってしまう事が多く、現存機能を活かしきれていなかった。“待つ”ことができる介護について、職員同士で話し合い、ちょっとしたさじ加減の違いに気づかされた日々でした。 ④　101 歳、102 歳と超高齢者が２人、他の誰よりも元気で家全体を明るくして下さいました。夏、畑のトマトが赤くなると「食べ頃だ、カラスに食べられてしまうから取って来い」と笑いながら会話が弾み、トマトを口にしては「美味いな～また作っぺな」と言ってくれたことが嬉しかった。 【面会状況】 （延人数 43 人、面会最多者７回）

(2)食事	①　「美味しかった～」との言葉を大切に、嗜好に合った形態で食事提供出来るよう心掛けてきた。 ②　家料理をする機会が少なかったが、季節の山菜や野菜を頂いた時は、急遽調理し、昼食に一品追加で皆さんに喜んでもらうことができた。 ③　食前のパタカラ体操や食後の口腔ケアを実施、誤嚥予防に繋げてきた。また、食事の体位や食器の位置などにも注意し、配膳を目の前で行う事で食欲が沸くよう努めてきた。 ④　最後まで口から食べる事の大切さを念頭におき、体調変化時の食事形態の見直しを幾度となく行ってきた。 【食事形態及び介助状況】 　食事形態　（軟食６人、ゼリー食２人） 　食事介助　（全介助１人、一部介助２人、自立５人）
(3)入浴	①　穏やかな時間を過して頂けるよう、室温や好みの湯加減で、安全とプライバシーに配慮して対応することができた。 ②　演歌や童謡、オルゴール音楽などを用いての入浴に心掛けてきた。 ③　体調変化により２人対応での介助や、介護用品の導入、入浴形態の見直しにより介護側の負担軽減にも繋げる事ができた。 ④　個々に合った入浴剤やボディークリーム等で保湿に心掛け、皮膚トラブルにないよう取り組むことができた。また、入浴時に発見する皮膚トラブルについては、直ぐに看護師に連絡、対処してきた。 ⑤　季節を感じられるよう年２回の菖蒲湯や、ゆず湯を提供することが出来、皆さんに喜んで頂けた。 【年間入浴者数】 （延回数：個別浴 576 回、機械浴 192 回）
(4)排泄	①　スムーズな排便が出来るよう職員間での申し送りや、看護師の協力により行う事が出来た。立位が難しい方についても可能な限り一日一回のトイレ介助を行い、すっきり感に繋げられた。 ②　羞恥心に配慮しながら、排泄チェック表を活用したトイレ介助や排泄交換が行えた。また、排泄の変化に合わせ、随時パットの見直しや皮膚トラブルを防ぐ対策もしてきた。 ③　消臭対策として、職員同士が互いに気付く事により、消臭スプレーや換気等を行ってきた。 【排泄介助内訳】 （トイレ介助者７人、オムツ交換者１人、リハビリパンツ使用から布パンツ移行人数３人）